

第2回水戸市総合企画審議会 会議録

- 1 附属機関の会議の名称
第2回水戸市総合企画審議会
- 2 開催日時
令和4年11月25日（金）午後1時30分から午後3時15分まで
- 3 開催場所
水戸市役所本庁舎4階 政策会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
黒木勇，後藤通子，首藤敦子，関育夫，竹中大介，富田教代，内藤学，原口弥生，百武幸子，平松良崇，保立武憲，水嶋陽子，村井道男，横須賀聡子，綿引健
 - (2) 執行機関
田尻充，小田木健治，宮川孝光，小野瀬嘉行，宮川善行，須田秀人，深作毅史，徳田恭子，平野孝典，宮窪千恵
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 水戸市第7次総合計画基本構想「骨子」（素案）について（公開）
 - (2) 水戸市第6次総合計画の評価（達成状況等）について（公開）
 - (3) その他（公開）
- 6 非公開の理由
なし
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。）
なし
- 8 会議資料の名称
資料1－① 基本構想の基本的な考え方
資料1－② 水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」
資料1－③ 水戸市の現況，特性及び市民意向等について
資料2－① 水戸市第6次総合計画の評価（達成状況等）について
資料2－② 目標指標（魁のまちづくりNEXTプロジェクト）達成状況等
資料2－③ 目標指標（基本計画・各論 小項目）達成状況等
資料2－④ 主要事業実施状況等
参考資料 「一あなたと描く水戸の未来—市民1万人アンケート」における市政に対する要望・意見（自由記述）について

9 発言の内容

【執行機関】定刻になりましたので、ただいまから第2回水戸市総合企画審議会を開催させていただきます。本日は、御多用の折にもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それでは会長に議事の進行をお願いいたします。___会長、よろしくお願いいたします。

【会長】皆さんこんにちは。それでは議長を務めさせていただきます。委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日は___委員、___委員、___委員、___委員、___委員から、所用のため欠席との連絡を受けておりますので御報告申し上げます。なお、本日の会議録署名人につきましては、___委員と___委員をお願いいたします。

本日の会議の開催に当たっては、事前に水戸市第7次総合計画基本構想「骨子」(素案)に係る資料が事務局から送付されたかと思えます。本日は、主に基本構想「骨子」(素案)について、皆様から御意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進行を務めさせていただきます。

はじめに報告といたしまして、前回の審議会で御意見のありました「—あなたと描く水戸の未来—市民1万人アンケート」の自由記述による要望、意見について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

【会長】ただいま報告のありました、市民1万人アンケートの自由記述について、主な意見が取りまとめられております。後ほど、参考にお目通しいただければと思います。

御質問いかがでしょうか。前回、___委員から御意見あったかと思うのですが。

【___委員】これからよく目を通して、総合計画に生かしていければよいと思っています。

【会長】それでは議事に入ります。はじめに、(1)水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

【会長】御説明ありがとうございました。ただいまの説明について、御質問、御意見ありましたら、お手元のマイクのスイッチをオンにして、御発言をお願いします。

【___委員】人口からお伺いします。今回の計画では2060年に24万5,000人という目標を掲げられており、社人研の予測を大きく上回っていますが、どういう形でこの数字は作られたのかお伺いします。

【執行機関】資料1-②5ページの将来人口推計の表につきましては、まち・ひと・しごと創生

総合戦略の水戸市人口ビジョン（第2次）で掲げている人口推計表をお示ししております。その中で示している人口を目安として、この人口規模を掲げているところでございます。しかしながら、国勢調査を基にした国の将来人口推計がこれから公表されるということもあります。また、それぞれの施策の効果も加味して、人口設定を進めていかなければならない部分もございますので、この人口ビジョンの数字を一つの目安としながら、今後、より細かい積み上げを行いまして、決定してまいりたいと考えてございます。

【___委員】 骨子「素案」ということで、一番大きな骨組みの部分でありますので、2060年の目標がどういう形で作られたのか、水戸市人口ビジョン（第2次）で掲げているので出しましたということではなくて、もう少し説得力のある数字で御説明いただけるものがありましたらお願いしたいと思います。

【執行機関】 水戸市人口ビジョン（第2次）での積算の手法等であれば、改めて出すことは可能でございますが、今後公表される国の将来人口推計を踏まえ、積み上げの数字、効果等をお示ししていければと考えてございます。

【___委員】 説得力のある形をお願いしたいと思います。目標人口が余りにも現実と乖離していくということであれば、骨子自体が何だろうってことになると思いますので、しっかりとした形で数字を出していただきたいと思います。

もう1点、7ページ、第4の都市空間整備構想における基本的方向のコンパクトシティのまちづくりです。現状を見ますと、例えば、水戸駅、赤塚駅、内原駅、県庁の四つの部分を中心・核としていくということが進んでおりますが、逆川周辺、県庁周辺では田んぼや畑、雑草林が住宅化しております。こういう地域に住宅が広がり、街が広がっている現状がありますけれども、住宅はこれから30年というスパンで建て替えということになります。そうした時に、この四つの核を中心としたまちづくりを進めていくという考え方でよろしいのかお伺いしたいと思います。

【執行機関】 資料8ページの都市空間整備計画のイメージ図になります。まずこの考え方ですが、都市核としまして、中心市街地を中心としたエリアを拠点と考えてございます。また、地域生活拠点として、赤塚駅周辺、内原駅周辺、そして下市地区という形でのネットワーク。さらには、地域産業系拠点として、県庁周辺、東部工業団地、水戸西流通センターを掲げさせていただきますので、先ほど四つとありましたが、大きくはこの構造の中での都市の発展を目指していくという考え方でございます。

【___委員】 現状の水戸市を見ますと、上市地区ではやはり高齢化で、お住まいにならなくなった方の住宅がそのまま残ってしまっています。子どもがどんどん郊外に家を建てている状況が見てとれ、上市地区の空洞化が進んでいく状況の中で、この計画ではまた上市地区、駅を中心としたところに生活拠点を向けていくということによろしいですか。

【執行機関】 このコンパクトシティという概念は、第6次総合計画から明確に掲げ、この都市構

造の中で進めてきたところでございます。次の総合計画におきましても、これらを踏襲しまして、今までの拠点づくりで進めてきた内容をさらにしっかり進めて、この都市核を中心としたネットワークづくりを進めていくという考えでおります。

【___委員】 そうした場合に、空き家問題、今まで上市で生活された方々がなかなか生活できなくなってくる、郊外に家を建てて移っていくという水戸市の状況があることもしっかり踏まえて、政策の骨子も具体的にその辺をどう手当していくのか。富山市の例を挙げますと、ライトレールを拠点としたまちづくりをやってはいますが、その人を誘導していく、乗用車でなくても暮らしていけるということがコンパクトシティの要だと思います。今まで水戸市で一番よかった点はその部分だと思いますので、考慮していただきたいと思います。

【___委員】 続けてもう1点ですが、子ども中心の施策を非常にたくさんうたっていますが、水戸市もこども部ができて、間もなく1年目が終わろうとしています。国もこども家庭庁が次年度から発足すると。国を挙げて子ども施策を進めておりますけれども、今回の骨子では高齢者に関してすごく薄くなっているのが気になりました。これからは人生100年時代で、高齢者の人口はものすごく増えていきます。そういう中で、この計画が見据える10年後、高齢者の方が歩いて暮らせるまちづくり、福祉の充実はものすごく重要になってきて、地方都市ではこの部分は欠かせないと私は考えています。上市地区で歩いて暮らせる、フードデザートの問題もそうですけれども食料品が購入できるという上市の核を中心としたまちづくりも必要ではないかなと。高齢者施策をもう少し厚くする考えはないのかお伺いしたいと思います。

【執行機関】 都市づくりの基本理念については、基本的な考え方を2ページ、基本理念を3ページに記載させていただいております。ただいまの高齢者に対する視点ですが、総合計画を作る上でも、今後の施策を展開していく上でも非常に重要な視点であると考えてございます。3ページの右下の部分、誰もが生き生きと暮らせる安心できるまちづくりとありますが、その中でも、健康づくりや医療・福祉などの充実というものもしっかり位置付けて、安心のある暮らし、生活を進めるという理念はしっかりうたっているところでございます。子どもというキーワードは強く前面に押し出していますが、決して高齢者施策をやらないというわけではなくて、子どもを押し出しながらも、その理念に向かって様々な施策を展開していくという考え方の整理をしてございます。

【___委員】 選ばれるまちになるためには、これからはやはり高齢者政策は切り離せないと思います。特に地方都市である水戸市において、高齢者の方がしっかり歩いて暮らせる、食事を購入できる、医療も近くにある、福祉も介護もあるまちづくりというのは、これから非常に重要だと思いますので、例えば、上市地区の空いた地域に誘導してくるといったこともぜひともお願いします。上市地区にはバスがたくさん通っていますので、歩いて暮らせる地域だと思います。高齢者施策もしっかりと組み入れていただきたいと意見申し上げさせていただきます。

【会 長】 本日、冒頭に、御提供いただいた参考資料1万人アンケートの自由記述でも最初に挙がっていたのは公共交通でありますし、人口が減少する中、まちとしてコンパクトシティを

目指す必要があるということは大きな総合計画の中での骨子となります。その中で、子どもはもちろんのこと、高齢者の方の福祉や生活を含めて検討いただきたいということかと思いました。

【___委員】私から何点かお伺いをいたします。資料1-②の8ページ、先ほど___委員からも御質問が出ておりましたけれども、「水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ」という名称になっています。よく市長の議会答弁などですと、第6次の際は「多極ネットワーク型コンパクトシティ」という言葉をよく使われていたと思うのですが、それを今回のものに置き換えた理由をお伺いできればと思います。もう1点、都市核と地域生活拠点の定義について簡単に御説明をお願いします

【執行機関】最初の質問で用語を変えた理由でございますが、水戸らしい地域拠点ネットワークということで、水戸らしさということの打ち出しでございます。その部分について、7ページでございます。1から4として掲げさせていただいております。1番の「都市核・拠点への都市機能の集積と連携強化・充実」というものは、これまで水戸市で進めてきた都市核と地域生活拠点の考え方を踏襲していくものでございます。また、2番の「自然を生かした環境負荷の少ない都市空間づくり」は、水戸市が持つ豊かな自然という他の都市とも違う大きな部分でございます。また、3番の「災害に強い都市基盤づくり」は、水戸市での災害、河川や地震等への対応が必要になってくるという部分であり、また、4番の「楽しめる交流拠点づくり」としましては、これまで様々な拠点づくりを進めてきたものを今後生かしていくというものです。水戸市の背景の中身がこちらに記載されております。そういった水戸らしさを生かしていくということで、このようなネットワークを作っていくというものでございます。

二つ目、都市核、地域生活拠点の定義でございますが、都市核は水戸市の中心となる地域としての業務、商業、行政、医療、文化芸術等の中心となった地域。地域生活拠点につきましては、業務、商業も含め、居住を伴った副次的な核となる拠点というものになっております。

【___委員】都市核と地域生活拠点の考え方ですけれども、先ほど___委員からもありました。今、県庁周辺の住宅集積度が高まっており、酒門、吉沢、吉田辺りも新しい家がどんどん立ち並んで集積が進んでいるなど、現状の地域生活拠点と同じような機能を持ったエリアが市内にも数か所出てきていると思います。そういったところを新たな地域生活拠点として設定した上で、そのネットワーク、公共交通が主なものになると思うのですけれども、流通強化、公共交通を含めて、そういったものを次の計画で設定していくお考えがあるのかお聞かせ願います。

【執行機関】ただいまの御指摘のように、様々な住宅の張りつき、商業の張りつき等がある地域はございます。しかしながら、住宅の張りつきだけではなく、赤塚駅や内原駅周辺の都市基盤整備を進めてきた背景もございます。宅地化が進む地域を後追いするのではなくて、これまでに整備してきた基盤のポテンシャルを生かしながら、それらにより集中させていくという考えでございます。

【___委員】ここは多分議論が分かれるところだと思います。現状のところに合わせて、そうい

ったものを設定して、新たな集積を生んで、成長を促すということも一つの手段ではあると個人的には思っています。先ほども出ましたけれども、都市核、あるいは地域生活拠点の空洞化というものが現状起きています。そこに、再集積を行っていくという強いメッセージを今度の第7次で発信をしていくのか、それとも新しい成長が見込めるエリアへのある程度の投資を水戸市としても考えていくのかというメッセージがやはり必要だと思います。現時点でのお答えだと、既存の集積エリアのところに戻りをさせ、充実させていくと私は受け止めましたけれども、そういったところも他の委員の皆さんの御意見いただきながら、新たな核・拠点というものの整備もある程度念頭に入れてやっていかないと。資料1-③でもありますけれども、ちょうど人口減少の転換期です。3番目のところに集積度ということも書いてありますので、その辺りとの整合性を合わせる意味でもぜひ御検討をいただきたいと思っております。

【執行機関】 県庁周辺、あるいは元吉田、酒門の人口集積が伸びているということで、地域生活拠点にしていく方策もあるのではないかと____委員からの御意見でございますけれども、基本的な現状から申しますと、今の人口が増えているところについては、市街化区域の中での人口の増加ではなく、その市街化区域の縁辺部において、都市計画に基づいて基盤整備がある程度進んでいるところでは、居住については認めていきたいと思いますという条例がありまして、それに基づいて人口が増加しているというものです。したがって、商業、業務とセットになった赤塚駅周辺、あるいは内原駅周辺の生活環境が整っているという意味での地域生活拠点とは、やはり性格が異なっていると考えております。

先ほど、今後人口が縮小していく中で、どういう土地利用の考え方をしていくかと____委員からも御指摘がありましたけれども、水戸市人口ビジョン（第2次）においても、人口は30年後には少なくとも2万人、世帯でいうと1万世帯減少していくとしている中で、やはり都市核を中心にしていく、資料8ページで言いますと黄色く塗られた市街化区域にできるだけ人口を集積していくという考え方でまちづくりを進めていかなければならないと考えています。当然都市核においては、まちなかの居住ということで増やしていきますけれども、それだけではなくてこの黄色のエリア、市街化区域の中で、例えば空き家であったり、空き地であったり、そういったところを有効活用して、居住を誘導していく方策、政策を考えていくというのが基本だと認識しております。

【____委員】 集積の考え方として、エリアを設定して集積をしていくというよりは、市街化区域の方に集積をしていくという考え方であるならば、そういったものをやはり強く明記する必要があるのかなと思いました。今回いただいた資料の中では、御説明いただいたようなところはなかなか見えにくいのかなという感じもいたしましたので、先ほどの意見を踏まえて、更なるブラッシュアップをしていければと思います。

【会 長】 5ページには2060年までの人口の推移がいくつかパターンありますけれども、社人研のデータでは、何もしなければ、2060年には約20万人まで6万人程度減少するという事です。小学校をはじめ様々なインフラ整備というものも関わってきますので、やはりここは人口減少に変わる転換期で、まちをどうコンパクトシティにしていくか、本気でやっていくという市の強いメッセージが必要なのではないかなということかと思っております。これに対して何か御

意見等があればお願いします。いかがでしょうか。

【副会長】基本構想を文章化して言葉に表すとすると、今はまだ具体的なものを出している段階ではないので非常に表現しづらいし、一般的には分かりにくい表現だろうと思います。一番大事なことは、例えば、連携中枢都市圏構想もありますね。こういった中・長期計画の中に、連携中枢都市圏構想の内容をどの部分にどのように反映させていくのかあまり見えないねとか。人口の推移についても、人口問題研究所のデータとは違う。せっかくまち・ひと・しごとの会議の方で、このように頑張っていくことによって人口を何とか維持したいという気持ちで出しているもの。それをもう少し言葉でどこかにはきちっと表していかないと、多分委員の先生方も少し分かりにくいだろうなと思います。

それから、一般の人たちが、コンパクトシティということを出した場合に、本当に水戸市はコンパクトシティになっていくのかなと。例えば、側溝もない場所にどんどん住宅ができてしまう。住宅の数はかなりの数になっても一向に舗装道路にはならないし、それはそこに住んでいる人たちの管理であるというベースでやっていることが続いていたのでは、コンパクトシティの実現はほぼ困難だろうと思います。そういったものは、すでにいろんな経過をたどって認めているという経過があるのでしょうかけれど、本当にしっかりと住みよいまちを目指すとなると、それだけでは済まない。そういうものについては、当面どう対応するのか、本当に将来どうするのかというような考え方の基本的なものを出す必要があるでしょう。

それから、産業が集積するということですが、水戸は東部工業団地があります。それ以外の工業団地は正直言ってないという状況ですね。そこで、産業はどういう産業を集積させるのかということですが、やはり水戸の場合には、茨城県を中心の役割を果たすような中枢的な出先機関がたくさんある。そういうことによる産業というのはあるけれども、例えばものづくりをすること。色んな生産が国内回帰してきますということで、これから工場を作るという企業はどこに作ってよいか。例えばここに工事をしてくださいというような、きちっとした適正な場所が全国にあるわけではありません。だから、そういうものがあるのだったら、ぜひ教えていただきたいということをそういった企業が言っているんですね。産業集積ということを行った時に、水戸はどの部分のどんなものを担っていかようと考えているのかというのがもう少し出てくると多分この基本構想の考え方がよく見えるようなのかなという気がします。まだスタートの時点ですから、そんなに見えるというわけにいかないと思いますけれども、そんなところが少しでも取り入れられるようにしていただければ大変ありがたいと思うので、これは参考でございます。よろしくどうぞお願いいたします。

【会長】ほかの点からも御質問、あるいは御意見等があればお願いします。今日は基本構想の構成と骨子ですね。先ほど、コンパクトシティ、水戸らしさ、あとは地域拠点ネットワークといったキーワードがありました。この辺りを共通認識できればよいのかなと思っていますけれどもいかがでしょうか。

【___委員】今更こんなこと聞いてよいのかなと思いつつも、水戸らしさという言葉がたくさん出ておりますが、皆さんは水戸らしさにどんな認識をお持ちでしょうか。

【会 長】事務局の方でもし何かお考えのイメージがあればお願いします。あるいは、皆様からここが強みではないかという様々な意見を出していただくのもよいかと思えますけれどもいかがでしょうか。

【執行機関】先ほどの「水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ」の裏付けとなった考え方などは、資料1-①の方で、基本構想の基本的な考え方として示させていただいております。事務局からといたしましては、その基本構想の構成を作るに当たって、水戸の特性や課題等を取りまとめたものが、大きな意味での水戸らしさという背景の部分であるのかなという考えを持ってございます。

【___委員】私が思う水戸らしさですけれども、水戸には歴史と伝統がある高校がたくさん集積しています。そういった教育環境が充実しているというところが水戸の素晴らしさなのかなと思います。

【___委員】水戸らしさというものが、全国で書かれるものと非常に重なっていて、何が水戸の特性なのか、すごく捉えにくいように感じています。今、___委員がおっしゃった高校の集積はまさに私も日々水戸で感じていることで、高校生がすごく多いまちというのは、よそに類を見ないことかなと思います。私自身は小規模特認校という形で小さい学校が残っているのも、多分よそにはない特性かなと思っていますところですが、産業のこととか観光のこととかよく存じ上げておりませんので、詳しい方にそういう視点からもよその市町村にない水戸ならではのものを教えていただけるとそのイメージが作りやすいのかなと思いました。

【会 長】他にも水戸らしさを挙げていただけるとありがたいと思いますし、多分この総合計画の中では、水戸らしさで全部整理するのではなくて、そこをきちっとした形で書くと読んだ方もイメージするでしょうし、そこからまた様々なイメージができて力になっていくのかなと。言葉の力をやっぱりもう少し活用する方がよいとは思っています。

【___委員】先ほど副会長と今___委員がおっしゃっていただいたので、私も少し全体の感想という形です。まずお伺いしたかったのは、今回、意見をいただきたいですということで骨子を送っていただいたところですが、骨子から多分ゆくゆくは第6次の時に作ったように冊子になると思うのですが、これは市民が見るために作っているのか、それともいわゆる施策をする部署やステークホルダーなど関係する人に向けた取扱説明書なのか、そこをもう一度確認したく、御意見をいただきたいと思えます。どちらの意味合いでしょうか。

【執行機関】どちらも含めてという、市民にも広く見ていただくという考えでございます。

【___委員】ありがとうございます。私は第6次の時も思ったんですけれど、その二つの意味をこの一つに持たせるというのは、少し相反しているのかなと思います。例えば、先ほど言ったコンパクトシティとか日常生活で使わない言葉で、それを行政として目指していきますよというのは、やはり取り扱う人のキーワードとしては必要だと思うのですが、一般的にやはり市民

の方、私もそうですけれど、もっと分かりやすくかみ砕いていかないと、これを出されて、これでこういうことをやっていきますと言われても、少し分かりづらいのかなというのが、第7次の骨子がどうかという前にまず全体的に思いました。

多分、アンケートの回答もそうですけれど、設問を読ませていただくと、問5ですね。現状満足していますか、これから重要度はどうですかということで、交通安全など項目が色々ありましたけれど、多分見た人は、交通安全の何が重要・満足度なのか分からないまま回答していると思うんですね。だから、ほとんどがどちらとも言えないとなっているんです。何を言いたいかというと、水戸市の方は本当に市のことを思って、献身的に頭と体を使って動いていただいているのですが、発信する人の立場で物を投げていかないと、なかなかそれが市民に伝わらない。やることをやっても評価されない。そうすると、市民たちがなかなか理解してくれないのかなというところがあるので、その点をもう一度立ち返って、第7次を作っていくか。第7次でこういう冊子ができても、やりたいこと、実行したいことというものに市民の感情や活動がなかなかついてきてくれなくなってしまうのかなと思いました。

もう1点ですけれど、子どもがフォーカスされていると御意見をいただきましたが、私少し全体的に思いました、言いたいことは非常に分かります。子どもを成長させて、安心するまちを作っていくというところのフォーカスとしてはあるのですが、第6次の時よりもそれ以外のものがかなり薄くなってしまったなという気がしました。さらに、その子どもに対する取組も子どもが教育を受けるために色々な施策を打っていくのか、それとも子どもを育てる親にやっていくのかというのが、色んな「が」と「を」が入っているので少し分かりづらい。子ども全体の何を言いたいのかが少し分かりづらい。その未来を作る子どもたちの育成というと、子どもたちが未来を作っていくために私たちは今やっていくようにするのか、それとも子どもたちが育ちやすいような環境を整えることで、親とか企業とかそういったものを集積して未来につなぐまちづくりをしていくのか、主体がさらに分かりづらくなってしまったというのが全体的な印象でした。

【執行機関】まず1点目の分かりやすさでございますけれども、前回は委員の方から、水戸市の現状についての資料について、もう少し分かりやすいように伝えたらよいのではないかというお話を伺って、内部で検討しているところでございます。総合計画についても、より市民に届くような形で作るというのは大原則でございます。この基本構想自体は議案として議会へお示しすることもありまして、ある程度の形式が求められるところでございますが、一方で、市民に伝える時には、しっかりとその分かりやすさという視点を持ち、改めて出し方については考えてまいりたいと思います。

それをあわせてだと思えますけれど、子どもへのフォーカスにつきまして、このメッセージ性というものは先ほど繰り返し説明させていただいたところでございます。ここの部分の分かりにくさということも、今の御意見を踏まえて、基本理念の表現がしっかり分かりやすく伝えられるように検討をさせていただければと思います。

【会 長】前回、市長が来られた時に、今回はすごく尖った計画をつくるということで、その中でも子どもがキーワードになっていました。今日の時点では、他が薄くなっているような印象かと思いますが、総合計画ですから最終的には入ってくるということかなと思います。

【___委員】子どもというキーワードで、他が薄くなっている印象ということですがけれども、私がこの資料拝見しました時に、子どもを育てやすい社会というのは、高齢者にとってもやさしい社会であるし、障害を持った方にとっても非常に生活しやすい社会ということではないかと受け止めました。ですので、もし水戸市の方がそのようにお考えになっているのであれば、やはり子どもというのがキーワードであって、それがどなたにとっても、最近流行りの言葉で言えば、多様性を認め合える社会というところで、水戸が魁のまちであるということの説明する部分があってもよいのではないかと思います。

【会 長】大人ではないので、こういう会議に子どもは出てこないですから、そういう声なき声を拾っていくという視点で子どもに注目するのは、まちづくりにおいてすごく大事なことかと思えます。

【___委員】今までの議論をお伺いして、今日の資料の5ページ、2020年に人口減少に転じたということで、非常に大きな危機をもって、そして2060年に1万世帯減るということですよ。ですから、この1万世帯をどうしていくかということで、若い世代がやっぱり水戸に来てくれないとこの1万世帯というのは増えないわけですよ。その中で若い世代を呼び込むには、やはり教育だと思います。学校がある。それから水戸芸術館もある。これは世界に名だたるものだと思います。あとは歴史が、水戸斉昭公の魁の精神というものが、今の水戸市の教育に息づいています。そういうことをやはり1番のキーワードにして、これからのまちをつくっていくということは、私は大変意義深いことだなと思いつつ聞いておりました。そして、若い世代を呼び込むのが、この都市核、地域生活拠点というところですか。色々揃っているところに呼び込んでいくと学校も通えるというような、郊外というよりはもう少しまちに呼び込もうということなのかなと理解しましたけれども、これは私の感想ですがけれども、そうすると、まちに活気が出てきますよね。実際、今小中学校の子どもも減っています。学区によっては非常に危機的な状況にあるところもありますけれども、今なら何とか間に合うのではないかなという感じがしますので、2060年に26万人の人口を目指していくというのは、やはりこれは非常に大きな取組なのではないかなと思いました。

【___委員】水戸の未来をリードする子どもたちを育むまちをつくるという基本理念などを説明いただいたところですが、具体的にどうしたらよいかという議論は今後していくということで、本日はこういう理念を今作っていますということに対する質問の場なのではないでしょうか。今回の会議の目的がなかなか理解できないところで。

【執行機関】今回、基本構想は、骨子素案ということで提出させていただいております。これが基本構想の全体になりますと、もっと文章を書き込み、説明を詳しくしていくものでございます。まだ、それに至る前段階として、基本的な構成要素の部分、核となる部分を今回お示しさせていただいているところです。そこについて御議論いただき、その意見を踏まえながら、次の段階の作業に進んでいきたいというところでございますので、何かあればこの時点で御意見いただければ事務局としてはありがたいと考えてございます。

【___委員】骨子について、子どもを生み育てやすい環境づくりというのは何か具体的に議論していくのは、今後段階的にやっていくことであって、そういうことを目指していますということをお示されているという理解でよろしいですかね。

私もずっと子育てをしていまして、こうしたらよいのではないかといろいろな案があるのですが、今回はそういうことを話し合う場ではなくて、こういうことを目指しているということですね。分かりました。

【会 長】資料1-②の2ページから、基本理念がありますし、先ほども今後の人口推計をどう考えていくのか、子どもというキーワードをこの中でどう位置付けるかなど御意見ありました。あとは、コンパクトシティについても、本当に資料8ページで書いたようなところでいくのか、もう少し現状に合わせるのかということもありますので、本日は具体的な施策というよりは、もう少し大きな基本理念をこれで行くことについて御意見いただいて、これである程度了承を得られたら、次は事務局の方で肉付けされてくるということかと思えます。結構重要で後では大幅な変更はなかなか難しいかと。肉付けされていって思うこともあるかもしれませんが、本日の時点で御意見あればいただけるとありがたいと思います。

【___委員】私は2ページ、3ページにある基本理念とか基本的な考え方とか、その大きな方向性には違和感はなく、これでよいのかなと思います。

先ほど、市の方から説明あったところですが、今のままだとやはりどうしても一般論的な表現で書かれているので、今後文章を書き込んでいく時に、水戸市の特性、強み・弱み、課題などの具体的なフレーズを入れていただくと、何で子どもたちを育むまちを一番上に置いているのか、何でこれが基本理念になっているのか、実現するための必要条件など書いていますけれども、もう少し分かりやすくなるのかなと思います。

ところどころに教育機関が集積する強みを生かしたと入っていますけれども、こういった水戸市らしい表現を入れていただければ、より分かっていくのかなと感じました。

【___委員】関連になるかと思えます。この基本理念の中で問題点はいくつか挙げてありますけれども、この問題点を解決するために、具体的にはこういうものをやりたいというようなことをどこかに書いていただければありがたいなと思っております。

【___委員】大枠ということで、ざっくりとお伺いしたいのですが、資料2の大きな紙の方で、水戸市第6次総合計画の時の将来都市像が「笑顔あふれる安心快適空間 未来に躍動する 魁のまち・水戸」ということですが、これを掲げた時はどういうことを目指して、どういうことが課題になって、こういう都市像を掲げたのか、もし分かればお伺いしたいです。

【執行機関】この第6次総合計画の策定の背景としましては、平成23年に東日本大震災がございまして、その後、市長が代わって新しい総合計画を作ったわけでありまして、その時にやはり3.11を経験した後の市民1万人アンケートの中でも、災害に対応するという部分に非常に強い市民の要望がございまして、それを解決していくためには、やはり市民が安心できる快

適空間をつくっていくということを第1のテーマに掲げたという経緯がございます。そして、震災からの復旧復興を果たして、未来に躍動する飛躍する都市を目指していく。魁のまちについては、今回も踏襲しておりますけれども、水戸らしい、水戸ならではの歴史的な背景、自然的な背景を踏まえて、先進的な気持ちで取り組んでいくという、まちづくりの強いメッセージ性を持たせて、この将来都市像というのが成り立っているということでございます。

【___委員】東日本大震災の後に、安全なまちにしたいという要望があつてこういう都市像が描かれたということですが、今後もPDCAサイクルで、この前はここがこうだったから、今度はこうしていこうというように、計画が実行されて、修正されていくのだと思うのですが。震災後の将来都市像がある中、資料2-①のところで書いてある指標の達成率を見て、第7次のこの「こども育む 暮らし楽しむ 未来に躍動する魁のまち・水戸」という将来都市像になったんですかね。

【会 長】資料2-①はまだ説明されていないですが、第7次は第6次の延長線上にあるわけで、資料2-①にあるような達成状況などを踏まえて、第7次の計画が立案されていますかということでしょうか。

【___委員】どういうところがこうだったから、第7次で掲げる将来都市像に変わってきたのかということをお伺いしたいなと思います。

【執行機関】第6次総合計画の評価につきましては、この後に議題として、事務局の方で説明をさせていただきますけれども、基本的には、先ほど申し上げました第6次総合計画の将来都市像に向けて、様々な施策を実現させてまいりました。先ほど申し上げた、震災からの復旧復興については、これは一丁目一番地の政策として行ってきたわけでありまして、そういった10年間の取組を踏まえながら、これから人口減少社会を迎えるに当たって、やはり一番大事なのは、これからの将来を担っていく子どもたちにスポットを当てていかなければならないという思いで、この第7次総合計画の将来都市像については、こども育むというものを最優先課題として掲げた上で、そして、それを支えていくためには、やはり経済の活性化もしていかなければなりませんし、生活環境も充実していかなければならない。子どもたちを育む親たち自身が、やはり楽しんで水戸のまちで暮らしていかなければ、子どもたちを健全に育めないという思いを込めて、「こども育む 暮らし楽しむ 未来に躍動する魁のまち・水戸」を第7次総合計画の基本構想における将来都市像として提案させていただいているという経緯がございます。

【___委員】今日は基本構想における大きな都市像などを決めていく大事な会議だとお伺いしましたので、その方向性について伺いました。

【___委員】個人的な感想も含めてですけれども、私はこの子どもに焦点を当てて特化したのはとてもよいなと思って聞かせていただいております。たまたまですね、昨日の日経新聞を読んでいたら、ウェルビーイングという特集がございました。それを見ていましたら、デジタル庁で、今、デジタル田園都市国家構想というのがあるそうですね。その中で、LWC指標、

Liveable Well-Being City 指標というのがあるらしくて、少し気になってネットで昨日調べてみたら、日本の5万人以上の都市を人口コーホートに基づいて六つにグルーピングしていました。Aが学生の集まるまち、Bが成熟したまち、Cが子育て世帯の集まるまち、Dが巣立ちのまち、Eが働くまち、Fが多くの世代の集まるまち。水戸がどこに当てはまるのか調べてみたら、なんとCの子育て世帯の集まるまちとグルーピングされているんですね。これは、子育て世代、30代から40代が増加し、子どもも増加、子育てをきっかけに転入してくる世帯が多い可能性があるまちというらしいです。たまたま、水戸市の事務方の人がこれを見て作られたのかどうか分かりませんが、ぴったり合っているなと思いました。第6次の計画のタイトルは、水戸を宇都宮に変えても、高崎に変えてもどこでも成り立つようなものだったので、今回子どもに特化して、それを中心に色んなものに裾野を広げていくという視点は、私はとてもよいなと思って聞いておりました。

人口を増やす、子育てしやすいまちにするということは、働く場所がないと人は集まってくれませんので、水戸商工会議所としても色々やっていますけれども、このA3の資料を見ていきますと非常に低評価ですね。商業に対する活力がないとか、魅力ある企業がないとか少ないとか、プライム市場上場企業は少ないと。事実ですので、私にとってはとても耳が痛いところですが、逆に水戸は100年企業を超える企業がたくさんございます。私の知っている限りでは91社ございまして、とても古い企業が多いです。逆に少し活性化がないとすれば、イノベーションが少しまだ足りない、生産性がまだ低いのか分かりません。何と言いましても、人が入ってくる働く場所がないといけませんから、そこも同時に、これから5年10年かけて広げていくことによりまして、元気な企業をいっぱい増やしていきたいと思っております。そして、子どもというのは未来ですから、このイノベーションと一緒に起こしていければ、とても魅力のある水戸がもっともっと出来上がるのかなと思っております。

元に戻りますと、水戸商工会議所としてもウェルビーイングなまちづくりというのは提唱しておりますので、これから、どこかに入れてもらうとよいのかなと思いつつ聞かせていただきました。

【___委員】 ___委員からすごくよい御意見をいただいて嬉しいなと思っています。水戸の未来をリードする子どもたちを育むまちをつくるとしており、私の少しひがみのような感覚なのかもしれませんが、水戸の未来をリードする子どもたちと言われてしまうと、すごく立派な子どもを育てなきゃいけないようなイメージがありました。子どもたちは皆立派でなくてよい。それこそ、子どもがウェルビーイングなまちというのが、私が子育て支援などに関わっていて、すごく思っていることです。子どもたちがすごく立派だったりとかみんながハッピーだったりとかではなくて、本当にその人の存在が認められて、一人一人が大切にされる子育てという「すべての子どもが」という視点を持ってほしいなと思いました。

【会 長】 今の子どもはなかなか生きづらいということもあります。社会全体の貧困問題のしわ寄せがいつているのもおそらく子どもだと思えます。今の時代は、もちろん多様性を認める社会ですので、立派でないといけないなどの誤解がないように表現を少し変えてもよいのかなと思えますがいかがでしょうか。

【執行機関】決してこの言葉自体リーダーを育てるという意味で使っているわけではございません。子どもたち皆が水戸市で活躍していけるといいますか。その未来を担う、担うということもまた少し難しい言葉でございますけれども、そういう子どもたち全体に対しての育み、育むまちという趣旨を考えていたところでございます。少し誤解を受けるということでもあるかと思っておりますので、表現を検討させていただければと思います。

【会長】未来をリードしてほしいというのは誤解もありますので、基本的には、それぞれの子どもが自分の持つ本来の能力、誰も知らない能力を発揮できる、その制限がないような形でその能力を開発するということがどこかに入っていれば、見方も大分違ってくるかなと感じます。

【___委員】先ほど、委員の方からも話が出ていましたけれども、私は第6次総合計画を策定する時に議員で、議会の中で委員会を作っていた一人でありました。その経過を若干思い出しますと、この計画が案という形でできた時にはかなりのボリュームで、内容も細かく出来上がっていきまして、議会で大きく変更というのはありませんでした。ほぼほぼ、審議会の皆さんで話し合っただけで決めていただいて、事務局とやり取りしていただいた内容が議会に上がってくるという形になります。今回はこういう形で私も参加できて非常に良かったのですが、議会では大きな変更はできないということは、第6次総合計画策定時に議員をやっていた私の経験でもありますので、ぜひとも皆さんの活発な御意見をお願いしたいと思います。

県央地域の中での水戸市の役割というのは非常に大きいと思います。水戸市単独で物事を考えるまちづくりではなくて、例えば、茨城町では茨城県で工業団地を大きく造成しております、企業も来るので、工場を作ったりしております。工場に来た方々に水戸で生活していただくというのも、この県央地域の水戸市の役割だと思いますし、常陸大宮市の職員の方が、以前、何年か前に言われていたのは、常陸大宮市でも人口減少が続いていて、若い人たちが水戸市に仕事を求めて行っちゃうんですと。お父さんお母さんを置いて出て、水戸市で家を建てる、住まいを設けるといのは、東京都に行ってしまうよりは水戸市に行っただけなのであればまだよいと。要は、土日に実家に帰ってきてお父さんとお母さんの面倒見てくださるのであれば、常陸大宮市から出ても、水戸市で暮らしていただければありがたいと言っていた言葉が非常に印象に残っています。

今、つくば市が脚光を浴びていますけれども、やはり水戸は水戸で県央地域としての魅力がものすごくある。先ほど、___委員がどんな魅力がありますかとおっしゃられていました。やはり水戸ならではの地域特性は間違いなくあります。

県央地域の核となっている水戸市ですから、もう少し広い視点も含めたまちづくりが必要です。水戸市の中で、工業・商業が来る場所がないと副会長がおっしゃっていました。場所がないのは確かです。茨城町やひたちなかにはいっぱいあります。子育てするのであれば水戸と先ほどありましたけれど、そういうところに勤めた方が、やはり水戸に来ていただけるような、もう少し広い目で見えていただいた方がよいのではないかなと思います。そういう部分をどこに入れ込むか分からないですが、もう少し広い視点で、県央地域の中心という部分はぜひ考えていただきたいなと思います。

私も子どもを水戸で一生懸命伸び伸び育てて、長男は就職で都内へ行っていました。帰

ってきてと言ってもなかなか帰ってくるための仕事がなく困っているのですが、帰ってきてほしいなどは思っています、子どもを立派に育て、立派ではなくても育てた子どもさんがまた水戸を選んで、子育てしていただけるようなまちづくりというのが大事かなと思います。ぜひ皆さん活発な意見で、骨子を作っていただければ、議会の方も非常に助かりますので、よろしく願いいたします。

【___委員】子どもというのはもちろん否定される価値観ではないと思いますが、やはり1万人アンケートなどを見ても、高齢者の方の意見と若い人の意見は全く違います。そうした中で、ここまで子どもだけに焦点が当たるかのような見え方をしてしまうのは、私個人としてはどうなのかなと思っているのが1点です。

あとは、先ほど委員の先生がおっしゃったように、見られ方として、水戸に人が集まればよいみたいな話に見えてしまうことはよくないと思います。水戸市は、高齢者の一人暮らしが非常に多いです。確かに県北の方にいる方が仕事を求めて水戸にいらっしゃることは分かりますが、実際、水戸市にも一人暮らしのお年寄りがたくさんおり、日本の平均以上となっています。個人的には、その高齢者の子どもはどこにいるのだろうとすごく気になっています。水戸で育った人が親を置いて市外へ出ていつているのか、それとも市内にいるけれども親とは別居しているのか、分からないところもありますが、やはりこの全世代を対象とし、全部見えるような形の方がよいのかなと思っております。

【会 長】おそらく、___委員が御指摘された部分と少し共通することがあるのかなと思いますが、この点はいかがでしょうか。意見交換してもよいかと思います。見せ方ということですね。

【執行機関】事務局としましては、先ほどの一人暮らしの高齢者を含め、当然高齢者施策についても十分進めていくという考えが大前提である中で、基本理念、あるいは将来都市像としては、子どもに焦点を当てて、そこをベースに打ち出していきたいという考え方でございます。

【会 長】今週、水戸市長が大学に来られまして、御挨拶された時にもこれからの10年間は子どもに関する政策が一丁目一番地だということでした。第6次の時には震災からの復興に集中したということですが、これからの数年間は、子どもにすごく注力した施策をやってきたいとの思いがこの理念に入っています。

政策全般としては、高齢者福祉ももちろん含めて、総合計画ですのもう少し先を見て、全体を捉えてやっていくわけですが、子どもを中心に重点的な政策を展開していくという実態もありながら、この総合計画を作らないといけませんから、ここに依然注力するということを明文化するなど、見える形で訴えていくということかと思えます。

基本理念については、先ほど「リードする」と表現する部分への御意見もありましたので、多少練っていただくのがよいと思います。よろしく願いいたします。

【会 長】ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。議事一つ目の骨子素案についての御意見をいただきありがとうございました。それでは、次の議事二つ目、水戸市第6次総合計

画の評価、達成状況等について事務局より御説明をお願いいたします。

(事務局説明)

【会長】第6次総合計画の期間の途中ではありますが、目標値とその達成見込みの概要について御報告がありました。御質問等があればお願いします。

【会長】細かいところですが、資料2-①の1ページ目に、令和3年度実績と令和5年度見込みの表があります。括弧内は令和5年度になるとこのくらいだという見込みです。達成度の評価が困難なものをバーとして表しておりますが、令和3年度の1件から令和5年度にかけて増えるのはなぜかなと思ったのですが、ここはいかがでしょうか。

【執行機関】資料2-②を御覧願います。こちらの一番下の指標でございます。市内総生産の目標指標を掲げておりますが、こちらの統計的データが出るのが、概ね2年後位になってございまして、令和5年度の達成の見込みを判断できるのは、概ね令和7年度程度になるため、バーで表記させていただいております。

【会長】集計時期に間に合わないということですか。承知しました。目標値がすごくチャレンジのものなのか、現状ベースのものなのかでその達成度の評価も難しく、これだけを見ても何とも言えないなという気もしました。

第6次の延長に第7次があるということでは非常に重要かと思いますが、いかがでしょうか。特になければ、先に進みますがよろしいでしょうか。

最後になりますが、その他について、何か事務局からあればお願いいたします。

【執行機関】事務局から次回の第3回の総合計画審議会についてのお知らせをさせていただきます。次回、第3回の総合企画審議会でございますが、本日いただきました御意見等を踏まえまして、改めて、基本構想「骨子」(素案)について御審議をいただきたいと考えております。

開催日につきましては、1月中旬頃に開催してまいりたいと考えておりまして、具体的な日程が決まり次第、改めて開催通知をお送りさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】ただいま、次回の会議は1月中旬に、本日の意見等を踏まえた基本構想「骨子」(素案)の審議をしたいという御提案がありました。よろしいでしょうか。

では、次回は1月中旬頃に再度審議することとさせていただきます。それまでに、この基本構想に係る御意見がありましたら、メール等で事務局までお願いできたらと思います。

以上で本日の議事は終了いたしました。様々な御意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお戻しします。

【執行機関】以上をもちまして、第2回水戸市総合企画審議会を終了いたします。長時間にわたり御審議をいただきまして、誠にありがとうございました。